



## 「らしさ」の再認識

片岡 友美

最近、行政や民間団体からの依頼で委員会や検討会に参加する機会が増えました。こうした会議の後には、主催事務局から議事録が送られてきますので、自分で発言内容をチェックし、場合によっては趣旨を変えずに適切な言葉や表現に書き直して再提出します。これらの議事録は一般に公開されたり、行政等の報告書に掲載されたりします。

先日、ある会議に参加して送られてきた議事録を見て、妙な違和感を覚えました。これってAIで作成しているのかな……と想像しました。内容を見ると、日本語は間違っていないし、文章としても筋が通っていて完璧。しかしながら、何と申しますか、全体的に言葉遣いが超お上品に仕上がっていて、優雅なセレブが喋っているような印象を受けました。これって私のキャラじゃない(笑)。まあ、内容自体は間違っていないから、これはこれでよしとしましたが、何かモヤモヤしました。

人それぞれの好みだと思いますが、議事録であっても、発言内容や言葉遣いなどにその人らしさや自分らしさが表現されていると、私は何となく安心します。AIはそういう「らしさ」を勝手にアレンジしたり、隠したりしてしまうのかも、と想像しました。あるいは、自分自身をセレブなキャラに寄せれば良いかもしれませんが、そういう訳にはいかないですね。だって、人間だもの。

「らしさ」は、生態工房における活動のあり方や自然再生手法の選択において、普段から意識しているところです。例えば、理論と実践の両方を大事にすること、なるべく大面積の自然を効率的に保全していくこと、何があってもしつこく活動を続けることなどが、当会らしさだと自負しています。これらの活動をどういう場所で、誰と取り組むかも重要で、こだわりがあります。他の団体がマネできない(マネしようと思わない!?)活動や運営を追求していくことが生態工房らしさであると、AIの啓示で再認識しました。

ちなみに、上記のタイトルと名前は自筆です。この字体から、私の○○○なキャラを想像していただくと幸いです。